

都市再生整備計画

しょうばら ち く
庄原地区

ひろしま しょうばら
広島県 庄原市

平成27年 3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	広島県	市町村名	しょうばらし 庄原市	地区名	しょうばらちく 庄原地区	面積	218 ha
計画期間	平成 27 年度 ~ 平成 31 年度	交付期間	平成 27 年度 ~ 平成 31 年度				

目標 「住む人」・「来る人」が安心して快適に過ごすことのできるまちづくり ・まちの機能や生活基盤を充実させた、安全・快適で賑わいの創出と交流を育むまちづくり ・中国地方を代表する交流拠点から交流人口を受けとめる都市機能の充実
--

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 1. 都市機能や拠点機能の集積地区である ・庄原ICが近接し、JR備後庄原駅やバスセンターなどが所在し、交通結節点となっている。 ・行政機関や庄原市民会館、庄原中央図書館、各学校をはじめとした教育文化機関などが集積した地区である。 ・地区に近接して、「食彩館しょうばらゆめさくら」や「国営備北丘陵公園」、「かんぼの郷庄原」があり、観光交流拠点となっている。 2. にぎわいや活力創出に向けたまちづくり事業を展開中である ・庄原市まちづくり計画(1期)や庄原地区都市再生整備計画(1期)により、「紅梅通り・まちなか広場」など、まちににぎわいや活力を創出するための各種事業を展開している。 ・一方で、既存資源や整備施設などを十分に活用しているとはいえない状況で、人どおりは多くない。 ・観光客の受け入れ体制として「案内サイン」が整備されつつあるが、「駐車場」の不足など、十分な整備とはいえない。 3. 活用しきれない既存資源が多くある ・地区には、落ち着いた素朴な雰囲気や古いまちなみの景観、路地・小路が残っており、庄原らしさを演出できる資源が残っている。 4. 住民主体によるまちづくり活動が展開されている ・平成15年から「まちづくりワークショップ」が行われ、現在でも「しょうばら花会議」、「九日市」など、まちなかのにぎわいと市民活動の活性化を目指した、住民主体のまちづくり活動が展開されている。 ・既存各種団体の活動を踏まえ、連携しながら発展・進化させる組織として「庄原まちなか協議会」を発足し、まちづくり活動を展開しようとしている。 5. 生活環境の整備が不十分である ・道路における安全な歩行空間の確保が不十分であることや、公園や広場などのオープンスペースが不十分であることなど、生活環境が十分であるとはいえない。
--

課題 1. 集積した都市機能の向上と維持 ・都市機能集積エリアとして、市街地内外の円滑な交通や交流の促進を図る必要がある。 ・都市機能を担う基盤や施設について、適正な機能維持を図る必要がある。 2. まちづくり事業の継続と発展 ・これまでに実施したまちづくり事業を振り返るとともに、継続・発展に向けた整備施設の補完や有効活用が必要である。 3. 既存資源を活用した魅力の創出 ・地域資源やこれまでのまちづくりにおいて整備した施設など、既存の資源を有効活用することが必要である。 ・既存資源などに新たな活気や魅力を付加させるとともに、庄原らしさを創出することでより魅力的な資源へと育て、内外へ発信していく必要がある。 ・人が気軽に集まることのできる、休み憩える空間が必要である。 ・近隣の観光交流施設からの観光客を受け入れるためには、不十分となっている体制を整えていく必要がある。 4. 住民主体によるまちづくり活動の発展・継続に向けた協働と連携 ・これまでの各種団体の活動を発展・継続させるとともに、連携・協働していくために構築した、新たな集約組織「庄原まちなか協議会」と協力的なまちづくりを進める必要がある。 ・このような住民主体によるまちづくり活動を継続していくためには、資金・助言・協働といった行政の支援が不可欠である。 5. 生活環境の向上 ・観光客や地域住民の生活に不可欠な自動車による来訪を支えるための環境整備が必要である。 ・子どもや高齢者が安心して安全に暮らせるまちづくりが必要である。 ・医療環境や道路環境など、地域での暮らしを支える生活環境の向上が必要である。 ・高齢者などの地域住民が、自動車に頼りすぎず不便なく生活できるように「歩いて暮らせるまちづくり」とともに、整備した社会資本の維持管理コストを抑えるための「コンパクトなまちづくり」の考え方や公共施設の統廃合などの検討が必要である。
--

将来ビジョン(中長期) ・庄原地域は高速道路・JRなどが通過するほか、官公署、医療機関、高校・大学、金融機関などが所在する市の中心部であり、この都市的空間が自然環境に調和する中で人々が集い、心がふれあって「便利な田舎」を形成している。このことから、長期総合計画では、庄原地域の将来像を支える地域展望のイメージフレーズを、『都市空間に笑顔が集い 心ふれあう 庄原地域』として定めている。また、土地利用の方向性は、都市機能集積エリアとして設定している。 ・都市計画マスタープランでは、各拠点を安全・円滑に連携することにより、暮らしやすく、効率的な都市活動が可能な都市づくりを目指している。また、中国地方を代表する交流拠点を訪れる交流人口を情報・にぎわい拠点で受け止め、市街地に呼び込むことによる都市活力の増進を目指している。 ・「庄原いちばん基本計画」で取り組む「庄原いちばんづくり」は、新たな視点での基本政策であり、「地域産業」「暮らしの安心」「にぎわいと活力」の3つの柱で構成している。数値や量、順位などにこだわったものではなく、「しあわせ」や「安心」、「達成感や満足感」といった、心の「いちばん」を実感できること、「やっぱり、庄原がいちばんええよのお」と思える「まちづくり」を意図している。
--

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
地域イベントの来場者数合計	人	地域イベントの「庄原駅前フェスタ」、「オープンガーデン」、「九日市」の来場者数合計	多機能複合施設である駅舎や魅力あるポケットパークの整備等により、地域イベントの活性化を促進し、地域イベント来場者数の増加を図る。	9,955	H25	15,000	H31
地域交流施設利用者数合計	人	地域内の交流施設である「市民会館」、「楽笑座」、「三軒茶屋」、「ひだまり広場」、「田園文化センター」の利用者数合計	施設改修や施設間ネットワークの整備等、各施設の利便性の向上により、くらしや住民活動の充実したまちづくりを目指し、交流施設の利用者数の増加を図る。	113,322	H25	122,000	H31
公共交通利用者数合計	人	JR備後庄原駅利用者数及び高速バス乗降客数の合計	駅舎改修や駅前広場、駐車場の整備等、利便性の向上により、広域交通である鉄道や高速バス等の利用促進を目指し、庄原駅の利用者数の維持を図る。	65,412	H25	66,000	H31

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>■まちの機能や生活基盤を充実させた、安全・快適で賑わいの創出と交流を育むまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地内の道路整備による安全性・快適性の向上を図る。 ・既存施設の改修などによる都市機能集約化やバリアフリー化を図る。 ・公共交通機関の利便性向上を図る。 	<p>庄原小学校線整備(基幹事業:道路) 駅前ポケットパーク整備(基幹事業:地域生活基盤施設) 駐車場整備(基幹事業:地域生活基盤施設) 駅前広場整備(基幹事業:高質空間形成施設) 公衆トイレ整備(基幹事業:高質空間形成施設) 地域交流施設整備(基幹事業:高次都市施設) 子育て支援施設整備(基幹事業:高次都市施設) 庄原駅舎改修整備(提案事業:地域創造支援事業) 庄原川手線整備(基幹事業:高質空間形成施設) 事業効果分析(提案事業:事業活用調査) ○庄原駅周辺地区土地区画整理事業(関連事業) ○高小路線整備(関連事業) ○庄原小学校建て替え(関連事業) ○市民会館改修(関連事業) ○駅前新庄線整備(関連事業) ○サイン整備(関連事業) ○庄原まちなか協議会支援事業(関連事業)</p>
<p>■中国地方を代表する交流拠点から交流人口を受けとめる都市機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客の受け入れ体制の整備を図る。 	<p>駅前ポケットパーク整備(基幹事業:地域生活基盤施設) 駐車場整備(基幹事業:地域生活基盤施設) 駅前広場整備(基幹事業:高質空間形成施設) 公衆トイレ整備(基幹事業:高質空間形成施設) 観光案内施設整備(基幹事業:高次都市施設) 庄原駅舎改修整備(提案事業:地域創造支援事業) 事業効果分析(提案事業:事業活用調査) ○高小路線整備(関連事業) ○駅前新庄線整備(関連事業) ○サイン整備(関連事業) ○庄原まちなか協議会支援事業(関連事業)</p>
<p>その他</p> <p>■住民参加による事業の計画・実施に関する内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本都市再生整備計画の作成にあたり、参考計画となる庄原市都市空間創造計画(庄原市街地編)の策定を行った。 ・庄原市まちづくり基本条例に基づき、庄原市都市空間創造計画(庄原市街地編)の策定に向けた地域住民の参加するワークショップを行い、地区に必要な整備等について検討を行った。 <p>■事業終了後の住民等による継続的なまちづくり活動の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庄原市都市空間創造計画(庄原市街地編)の策定に向けて行われた地域住民参加ワークショップを母体とした「庄原まちなか協議会」が発足したことから、当事業を契機として、既存活動団体と連携してまちづくりを進めていく。 ・「庄原まちなか協議会」は、これまで地域で活動してきた団体の核となる人や学生、事業者、学識経験者、行政等が一体となった組織である。様々なノウハウを持った人財であり、地域資源と位置付けることのできる団体である。 <p>■まちづくりの目標の達成に向けた、交付期間中の計画の管理に関する内容、回数等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主にソフト事業においては、「庄原まちなか協議会」との連携を前提とした事業を推進し、第1期都市再生整備計画の成果を踏まえたまちづくりを進めていく。 ・事業や指標に関する情報は、その内容や進捗状況を広く一般に公開し、地域住民の声を取り入れながら住民参加型の手法でまちづくりの過程を検証していく。 ・また、その活動では、単に指標の達成状況の確認にとどまらず、その問題点や課題の解決に向けた取り組みも積極的に行う。 	

